山陽小野田市立山口東京理科大学

地域連携・社会貢献レポート

2018年4月～2019年3月






公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって

山陽小野田市立山口東京理科大学
学長　森田　廣

大学の存在意義は何か。もちろん、揺るぎない柱としての大学の存在意義は人材育成でありましょう。入学した学生の勉学意欲に応え、学生を取り巻く周囲の期待も満たすことでしょう。しかし、冒頭の問いへの解答の難しさの一つの理由は、ひと昔前に比べ、大学に対する価値観がかなり変化してきたことにあります。かつての、教育研究の場、幅広い知識と高度の専門性、長期の課題に挑戦するところといった印象が揺らぎ、短・中期的な社会貢献、研究成果の社会への確実な還元といったことが課せられるようになってきている事実があります。加えて新たな取り組みとして、社会・地域への積極的なアプローチ、地域産業の創出・振興までも期待されているのです。

こうした中、本学の目指すところの拠り所は理科大の建学精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」、いわゆる実学主義にあります。これを受けた本学の理念・目標等はＨＰや大学案内に明示してあり、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに反映しています。さらに、「SOCU Way（本学の進むべき道）」として明瞭に掲げてあり、“教育と研究の成果としての社会・地域貢献と人材育成”を本学の行動基準としているのです。その結果として、本学が永年、標榜してきた育成すべき人材が「地域産業界や地域社会で活躍できる人材」となったのです。本学は既に5000人近いこうした人材を社会に送り出して来ましたが、その教育と研究の過程で多くの地域関連活動、社会貢献活動を行い、成果を上げて参りました。今回、その一端を本レポートにてご紹介させて頂きますことは本学関係者一同の喜びであります。まさに前述した社会や時代の要請を先取りしてきた大学ということができます。

さらに、本学の創立を振り返りましても、地元の県や市の自治体とものづくりを中心とした産業界、東京理科大学の三位一体の想いが形となって、1987年に公私協力方式でスタートしております。当初の工学系短大から４年制大学に移行したのが1995年、さらに公立化したのが2016年です。大学の設立からして本学は地域との強い繋がりがあり、教育、研究面での地元との連携を礎として参りました。昨今、文部科学省が盛んに主導しているCOC、即ち、大学は地域の知の拠点であるべきという考え方も、本学においては既に誕生時から背中に背負ってきたものです。これからもその思いは微塵も変わることなく、本学はまさしく、地域立大学として未来に向かって前進してまいります。

本学の地域連携・社会貢献の取り組み

山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、学校法人東京理科大学との姉妹校関係を維持強化しつつ、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としています。

また、教育及び研究とともに、地域創生における「知のローカル・ハブ」という役割を果たし、地域社会と地域産業の振興・発展に寄与する社会貢献機能を備えた個性ある大学となることを基本姿勢としています。

本学の地域連携・社会貢献の取り組みは、設立母体である山陽小野田市から提示された中期目標のうち「地域社会との連携、地域貢献に関する目標」の達成に向け、本学が2016年4月1日から2022年3月31日までの6年間に実施する「地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画」に基づいて行われています。

本レポートでは、本学が中期計画に基づき、2018年度に行いました地域連携・社会貢献の取り組みの一部をご紹介いたします。

＜地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画＞

1　地域コミュニティの中核的存在としての拠点化

(1)　地域連携センターの生涯学習部門及び地域連携室を中心に地域社会との連携や地域貢献活動を推進強化します。

(2) 講演会、研修会、教育・教養講座及び中高教員向教育等を計画、実施します。

(3) 地域の技術力向上の支援（技術相談、企業教育支援、専門家派遣、人材の供給等）を行います。

(4) 学生向けの地域教育の推進及び地域活動の支援（大学施設・設備の提供、教員知識の活用等）を行います。

(5) 地元小中高への出前授業や実験体験、市民への大学開放を実施します。

2　産業界との連携

(1) 大学の技術シーズと企業の技術ニーズのマッチングを図り、支援する仕組みを構築します。

(2) 研究連携、シンポジウム、セミナー及び研究成果の活用促進等大学の外に向けた活動を活性化します。

3　政策形成等に貢献するシンクタンク機能の発揮

(1) 地域の課題に対して積極的に市や商工会議所の委員会、審議会に参加します。

4　学生の地元定着

(1) 入学者に占める県内学生割合の向上

入学者選抜の適正な実施に留意しつつ、入学者に占める県内出身者の割合を高めていきます。

(2) 県内就職割合の向上

大学を卒業し、県内に就職する者の割合を高めていきます。

目　　次

社会貢献レポートの刊行にあたって……1
本学の地域連携・地域貢献の取り組み……2

１．市民への貢献……6
(1) 特別講演会……6
(2) かがく博覧会……6
(3) 大学開放授業……7
(4) サイエンスカフェ……8
(5) 薬草ウォーク～薬草を学ぶ、薬草で学ぶ……8
(6) ミュージアム・ライブラリー連携特別展……9
(7) 図書館の開放……9
(8) 運動施設・教育施設の開放……10
(9) ビブリオバトル……10
(10) 健康で長生きのまちづくりフォーラム ～スマイルエイジング in 山陽小野田～ ……11

２．小学校・中学校への貢献……12
(1) ほんものの科学体験講座……12
(2) 小学生くすりの正しい飲み方体験学習……13
(3) 小学生と留学生との異文化・国際交流会……14
(4) スクールボランティア……14
(5) 市内小・中学校児童生徒科学研究発表会講師……14
(6) 中学生による職場体験……15
(7) 夏休み科学作品に対する学長賞の授与……15
(8) 夏休みジュニア科学教室……16

３．高等学校への貢献……17
(1) 理科教員のためのリカレントセミナー……17
(2) 深い学びにつなげる理科研修講座……17
(3) 高校生体験学習・出前講義……18
(4) 教員免許状更新講習会……19
(5) 化学分析指導者講習会……20
(6) ＰＴＡ大学見学会……20

４．産業界への貢献……21
(1) 研究・技術公開……21
(2) 技術相談会……21
(3) やまぐち産業維新展……22
(4) イノベーション・ジャパン 2018 ……22
(5) 研究機器の開放……23
(6) 研究シーズ集の発刊……23
(7) 商工会議所会報による大学技術紹介……23
(8) 産学官連携セミナー「山口東京理科大学との連携による地域づくり」……24
(9) やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議シーズ発表……24

５．地域団体への貢献……25
(1) 地元の皆様のための特別見学会……25
(2) 社会福祉協議会の大学見学会……25
(3) 高千帆公民館大学見学会……26
(4) 有帆公民館大学見学会……26
(5) 出合公民館大学見学会……27
(6) りゅうみんネット懇談会……27
(7) 防府市青少年科学館サイエンスアカデミー……28
(8) 第９回ＳＯＳ健康フェスタ……28

６．学生による地域貢献……29
(1) 薬学部生が「山口ゆめ花博」で薬草を紹介……29
(2) キャンパスクリーンキャンペーン……29
(3) 海岸清掃エコツアー……30
(4) 理科大警備隊部による「児童の通学路の見守り活動」……30
(5) 学生ボランティアによるＪＲ雀田駅環境整備……31
(6) 西部ふれあい祭り……31
(7) 天神おんな神輿……32
(8) 山陽小野田市民カーニバル「おんなみこし」……32
(9) All Tea Garden 部による「理科大かたつむりカフェ」……33
(10) All Tea Garden 部による「ふれあいまつり理科大カフェ」……33
(11) 写真サークルによる「学生フォトリレー山口写真館」……34
(12) 図書館フェスティバル……34
(13) 竜王祭……35
(14) ボードゲーム部による「スマイルキッズ活動」……35
(15) 住吉まつりでの「龍舞」披露……36

７．学生の研究成果による貢献……37
(1) 地域防災 GIS 活動……37
(2) enPiT ビジネスシステムデザイン……37
(3) デマンド交通システムのシミュレーター開発……38

８．地域の知を教育に生かす取り組み……39
(1) 地域卒業研究……39
(2) リーダーシップ論……39
(3) 地域技術学……40
(4) 地域産業論……40
(5) 地域社会学……41
(6) 市内企業インターンシップ……41
(7) 市内企業見学バスツアー……41
(8) 市内企業製造工程見学……42
(9) 県内企業インターンシップ……42
(10) ボランティア活動……42
(11) 地域イノベーション戦略支援プログラム……43
(12) 山陽小野田市消費生活セミナー……43
(13) 食育セミナー……44
(14) 行政薬剤師体験実習……44

(15) 県内製薬企業見学会……45
(16) 学術と地域文化……45

９．地方公共団体への貢献……47
(1) 市長による総合計画説明会……47
(2) シビックプライドに関する市と大学の合同研修……47
(3) 市長と学生によるスマイルトーク……48
(4) スマイルシティ１日市長大学見学会……48
(5) 山口県知事による特別講義……49
(6) 山陽小野田市中央図書館フェスティバル……50
(7) 市立図書館との相互利用……50
(8) 江汐公園に薬学部附属薬用植物園を開園……50
(9) 各種委員の応嘱（行政関係）……51
(10) 住まいる奨励金……53
(11) レノファに会えるまち・スマイルシェアミーティング……53

10. 警察署・消防署との連携……54
(1) 学生消防団員……54
(2) 交通安全ガイダンス……54
(3) 交通安全講習会・薬物防止講習会……55
(4) 学生と警察署・自治会長との連携協議会……55
(5) 麻薬・覚醒剤乱用防止運動山口大会……56
(6) 防災訓練……56

11. その他の取り組み……57
(1) 各種委員の応嘱（行政関係以外）……57
(2) 非常勤講師・役員の応嘱（行政関係以外）……59
(3) 山口県薬剤師会との連携協定締結……60
(4) 山陽小野田薬剤師会との連携協定締結……61

12. 地域からの入学……62
(1) 地域推薦入試……62
(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）……62

13. 地域への人材輩出……63

14. 地域への経済波及効果……63

15. 市内人口の約 56 人に 1 人が理科大生……63

１．市民への貢献

(1) 特別講演会

「氷はなぜ水に浮くのか」

開催日：平成 30 年 8 月 25 日（土）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：前東京理科大学学長・栄誉教授　藤嶋昭　氏

主　催：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：市民を対象に、文化勲章を受賞した前東京理科大学学長の藤嶋昭先生から「氷はなぜ水に浮くのか～身の回りには不思議なことがたくさんあります。光触媒の最新情報もお話しします～」をテーマに特別講演会を開催しました。講演会には小さな子どもから小学生、中学生、高校生、社会人の方など市内外から約 150 名の方が聴講されました。





(2) かがく博覧会

開催日：平成 30 年 9 月 29 日（土）・30 日（日）

場　所：おのだサンパーク

主　催：山陽小野田市・山陽小野田市立山口東京理科大学連携協議会

内　容：かがく博覧会は、山陽小野田市・山陽小野田市立山口東京理科大学連携協議会が開催しているもので、市内の小・中学生の科学作品の展示や、市内の高校、大学、企業による実験ブースなどが出展。科学を学ぶ楽しさや驚き、感動を体験するイベントで、3,178 名の方が来場しました。本学からは 11 ブースが出展し、それぞれのブースで個性あふれる実験等が行われました。









実験テーマ	担当者
小型ロボットの操作体験	工学部機械工学科　池田毅　講師
小型レーシングカーに乗ってみよう	工学部機械工学科　貴島孝雄　教授
ラズベリーパイを使ったプログラミング体験	工学部電気工学科　井上啓　教授 工学部電気工学科　山本頼弥　助教
光を分けよう！曲げよう！！	工学部電気工学科　合田和矢　講師
スライムを作ろう	工学部応用化学科　北條信　教授
色が変化するハーブティー「マローブルー」	工学部応用化学科　森崇理　助教
くすりの秘密-くすりの飲み方と工夫	薬学部薬学科　田村雅史　講師
人体の科学と薬剤師体験	薬学部薬学科　坂井久美子　講師
低温の世界を体験してみよう！	共通教育センター　金田和博　教授 共通教育センター　浅野比　講師
小型のロボットをプログラムでうごかしてみよう	共通教育センター　見山友裕　教授
理科大のお兄さんたちと遊ぼう	HMS（ハンドメイドサイエンス）部

(3) 大学開放授業

開催日：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

主　催：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：大学の学生が受けている授業の一部を地域の皆様へ公開しました。平成 30 年度は前期 10 講座、後期 11 講座開講し、延べ 18 名が受講しました。受講を終了した方には修了証が授与されました。

(4) サイエンスカフェ

山陽小野田市立中央図書館を会場に、お茶を飲みながら案内人を務める本学の教員が身近な科学や技術を紹介しました。平成 30 年度の開催状況は次のとおりです。

第 21 回	平成 30 年 4 月 28 日（土）（19 名） 「身のまわりの渦の不思議」 工学部機械工学科　結城和久　教授
第 22 回	平成 30 年 6 月 16 日（土）（12 名） 「カオスとフラクタルの世界」 工学部電気工学科　井上啓　教授
第 23 回	平成 30 年 8 月 25 日（土）（16 名） 「世界で一番小さいカプセルの化学」 工学部応用化学科　白石幸英　教授
第 24 回	平成 30 年 10 月 27 日（土）（15 名） 「日本とアメリカ 科学教育の違い」 薬学部薬学科　百渓江　教授
第 25 回	平成 30 年 12 月 15 日（土）（14 名） 「毛髪を使ってクスリを追う」 薬学部薬学科　和田光弘　教授
第 26 回	平成 31 年 2 月 23 日（土）（22 名） 「身体運動と健康のかかわり」 共通教育センター　大庭尚子　講師





(5) 薬草ウォーク～薬草を学ぶ、薬草で学ぶ

開催日：平成 30 年 11 月 11 日（日）

場　所：山陽小野田市江汐公園

主　催：総合型地域スポーツクラブ厚狭地域連絡協議会

内　容：本学は共催として参画。江汐公園内に植生する薬用植物の名前と薬効について学び、薬用植物園の管理者である矢原正治特命教授による講話や共通教育センター・大庭尚子講師のイスを使ったリズム体操、また薬草スタンプラ

リーや薬草の天ぷらなどを提供する薬草屋台など様々な企画が催されました。本学の薬学部生 17 名もボランティアとして参加し、受付や講義の手伝い、薬草てんぷらや薬草茶のサービス、道案内など、様々な場所で活躍しました。





(6) ミュージアム・ライブラリー連携特別展

開催日：平成 30 年 11 月 1 日（木）～12 月 27 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学図書館本館

内　容：「ひらく」を共通テーマに、山口県内の 13 大学 17 の博物館・図書館が参加した「山口県大学ミュージアム・ライブラリー連携特別展」を開催しました。本学の展示コーナーでは、「薬用植物と 100 年前の薬学雑誌」と題して、薬用植物を見て・嗅いで体験できる展示、明治時代に刊行された薬学に関する貴重な資料について紹介しました。





(7) 図書館の開放

図書館を市民の皆様に開放しています。平成 30 年度の地域の方による図書館入館状況は次のとおりです。※平成 30 年度は図書館本館のみ開放。

施設	入館件数
図書館本館	348 件
図書館別館	―

(8) 運動施設・教育施設の開放

体育館、テニスコート、グラウンドなどの運動施設と、教育施設を地域の皆様に開放しています。学外者も安全に施設を利用できるように、テニスコートとグラウンドの新設工事を行うため、平成 30 年度は体育館と教室を地域に開放しました。平成 30 年度の施設利用状況は次のとおりです。

施設	利用件数
体育館	23 件
教　室	5 件

(9) ビブリオバトル

開催日：平成 30 年 9 月 29 日（土）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学図書館本館

内　容：ビブリオバトルとは、参戦者（本の紹介者）が「読んで面白いと思った本」について発表し、参加者全員（参戦者・観戦者）がどの本を一番読みたくなったかを基準に投票して優勝本を決めるものです。平成 30 年度は、市民と学生の総勢 22 名が参加しました。参戦者が発表した後は質疑応答が活発に行われ、それぞれの本の魅力を掘り下げていきました。優勝本に輝いたのは「砂漠」でした。絵本から小説まで幅広い分野の本が紹介され、大いに盛り上がりました。





(10) 健康で長生きのまちづくりフォーラム
～ スマイルエイジング in 山陽小野田 ～

開催日：平成 31 年 1 月 26 日（土）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：「医者に聞きにくい薬の話～知って安心！薬と上手に付き合うコツ～」
東京理科大学薬学部　上村直樹　教授
「健康づくりのために運動はかかせない !? 」
共通教育センター　大庭尚子　講師
「笑顔で年を重ねていくために～健康で長生きのまちづくりに向けて～」
薬学部薬学科　武田健　教授

主　催：山陽小野田市

内　容：山陽小野田市の市民に健康づくりについて考え、その改善に向けて何ができるかを考える機会を提供する取組みについて、本学が共催として参画。講演やパネルディスカッションを実施し、約 270 名の方が参加しました。





２．小学校・中学校への貢献

(1) ほんものの科学体験講座

山陽小野田市教育委員会と本学が協力して実施する「ほんものの科学体験講座」は、本学がもつ人的・物的資源を活用し、小学校・中学校では普段実施できない科学実験を体験できる貴重な機会を提供するものです。受講対象者は、小学校高学年以上（５・６年生)、中学校全学年としており、体験を希望する小・中学校が、希望する講座を選択し受講します。平成 30 年度は、本学から教員と学生が小・中学校を 18 回訪問し、延べ 731 人が受講しました。

開催日	学校名	講座名	講師	受講数
7 月 12 日(木)	有帆小学校	電気と磁気の摩訶不思議な関係	工学部電気工学科 穐本光弘　講師	30 人
7 月 12 日(木)	高泊小学校	真空ショー	工学部電気工学科 大嶋伸明　講師	48 人
9 月 12 日(水)	高千帆小学校	低温の世界	共通教育センター 金田和博　教授	102 人
9 月 13 日(木)	厚狭小学校	真空ショー	工学部電気工学科 合田和矢　講師	18 人
9 月 20 日(木)	本山小学校	低温の世界	共通教育センター 浅野比　講師	34 人
9 月 21 日(金)	本山小学校	斜面の実験を体験！	共通教育センター 吉村高男　教授	31 人
10 月 1 日(月)	厚陽小学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 橋本慎二　教授	9 人
10 月 4 日(木)	竜王中学校	真空ショー	工学部電気工学科 大嶋伸明　講師	79 人
10 月 25 日(木)	津布田小学校	真空ショー	工学部電気工学科 山本眞也　講師	15 人
11 月　8 日(木)	埴生総学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 石川敏弘　教授	34 人
11 月 15 日(木)	有帆小学校	真空ショー	工学部電気工学科 伊藤雅浩　助教	26 人
11 月 20 日(火)	埴生小学校	真空ショー	工学部電気工学科 阿武宏明　教授	29 人
11 月 27 日(火)	竜王中学校	電気と磁気の摩訶不思議な関係	工学部電気工学科 穐本光弘　講師	75 人
11 月 27 日(火)	赤崎小学校	低温の世界	共通教育センター 浅野比　講師	36 人
12 月　6 日(木)	埴生小学校	光を作ってみよう	薬学部薬学科 和田光弘　教授	33 人
12 月 11 日(火)	赤崎小学校	プログラミングとは	共通教育センター 見山友裕　教授	54 人
12 月 13 日(木)	出合小学校	低温の世界	共通教育センター 金田和博　教授	22 人
12 月 19 日(水)	小野田小学校	真空ショー	工学部電気工学科 森田廣　教授	56 人
計				731 人





(2) 小学生くすりの正しい飲み方体験学習

開催日：平成 31 年 2 月 14 日（木）

場　所：市立小野田小学校

担当者：薬学部薬学科　和田光弘　教授

薬学部薬学科　武藤純平　准教授

内　容：小学 5 年生を対象に「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う～体験学習～」を開催しました。これは本学、一般社団法人山陽小野田薬剤師会、NPO 法人医薬品適正使用推進機構の共催により行い、薬学部 1 年生のボランティアによるクイズや実験により、医薬品を安全・有効に使用するために、正しく服用することの意義を楽しみながら学びました。





(3) 小学生と留学生との異文化・国際交流会

開催日：平成 30 年 7 月 5 日（木）

場　所：山陽小野田市立赤崎小学校

内　容：本学の外国人留学生 3 名が、市立赤崎小学校を訪問し、自国の文化や生活を紹介するとともに、日本の伝統的な遊びをするなど、小学生たちと楽しく交流する機会を持ちました。





(4) スクールボランティア

将来、中学校・高等学校の理科の教員を目指す学生たちにより結成した教育研究サークルの学生たちが、ボランティアにより山陽小野田市内の小学校・中学校を訪問し、理科の授業の準備や片付け、実験の補助、個別指導の支援を行いました。

期　間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

場　所：市立赤崎小学校　（毎週火、水、金、体育祭・学習発表会補助等）4 人訪問
市立本山小学校　（毎週金、体育祭・学習発表会補助等）4 人訪問
市立須恵小学校　（毎週金、体育祭・学習発表会補助等）1 人訪問
市立竜王中学校　（夏期講習の学習補助）4 人訪問
市立小野田中学校（テスト期間中の学習補助）4 人訪問

顧　問：共通教育センター　吉村高男　教授、福田廣　教授

(5) 市内小・中学校児童生徒科学研究発表会講師

山陽小野田市の小・中学生が夏休みの自由研究の成果を発表する発表会に、本学の教員が講師として参加し、講評を行いました。

開催日：平成 30 年 10 月 1 日（月）

場　所：山陽小野田市立有帆小学校

講　師：共通教育センター　教授　金田和博

(6) 中学生による職場体験

開催日：平成 30 年 11 月 20 日（火）・21 日（水）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田市立高千帆中学校の生徒が、本学図書館で職場体験を行いました。はじめに森田学長による本の紹介とその本にまつわる手作りの手品リングで和やかな時間を過ごしました。次に、図書館の仕事の概要や請求記号について学び、図書の配架や装丁、カウンター業務に従事。実習の締めくくりには「僕たちのオススメコーナー」の作成をしました。利用者のために一生懸命に業務に取り組む様子が見られ、「表には見えない、いろいろな仕事があることがわかった。」「苦労もあったけど、働くことは楽しいなと思った。」という感想をいただきました。





(7) 夏休み科学作品に対する学長賞の授与

開催日：平成 30 年 9 月 30 日（日）

場　所：おのだサンパーク

内　容：山陽小野田市内小・中学生の夏休み科学作品約 200 点を学長が 1 点 1 点審査し、学長賞を授与しました。また、平成 30 年度は本学の薬学部設置を記念して学長特別賞を設け、これを授与しました。





(8) 夏休みジュニア科学教室

開催日：平成 30 年 8 月 26 日（日）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：「真空の不思議」

共通教育センター　笠置映寛　准教授、浅野比　講師

主　催：夏休みジュニア科学教室実行委員会、公益財団法人やまぐち産業振興財団

内　容：山口県内の小学生・中学生を対象に、科学の面白さを知ってもらうための、地域の大学と企業等の 17 団体が協力して行う、夏休みジュニア科学教室に本学も協力し、楽しい科学実験を体験していただきました。本学のプログラムには定員 20 名のところ 54 名もの応募をいただきました。

３．高等学校への貢献

(1) 理科教員のためのリカレントセミナー

開催日：平成 30 年 12 月 15 日（土）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：中学校・高等学校の理科教員を対象に開催し、学校教育の現場に貢献する研修プログラムを提供しています。平成 30 年度は「化学」をテーマに、学校教育での理科が大学や企業の研究開発と深い係わりを持っていることを紹介いたし、10 名の方に参加いただきました。

講　師：講義「世界一をめざす化学材料について」
工学部応用化学科　石川敏弘　教授
実験「うがい薬をつかってウィルスより小さい金コロイドを作ってみよう」
工学部応用化学科　白石幸英教授





(2) 深い学びにつなげる理科研修講座

開催日：平成 30 年 10 月 25 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：「生命科学と深い学び～薬学を通して人の健康を守る～」
薬学部薬学科　黒川陽介　教授
薬学部薬学科　伊豫田拓也　准教授

主　催：やまぐち総合教育支援センター

内　容：理科教員の専門性向上を図るため、生徒が自ら気付いて学ぶことで深い学びを実現する観察、実験の工夫について研修することを目的に、やまぐち総合教育支援センター主催の高等学校・特別支援学校「深い学びにつなげる理科研修講座」を本学で開催しました。講師として薬学部薬学科の黒川陽介教授と伊豫田拓也准教授が「生命科学と深い学び～薬学を通して人の健康を守る～」をテーマに講義・実習を行い、当日は山口県内の高校教員 14 名が参加されました。




(3) 高校生体験学習・出前講義

高校生を対象に、本学の実験実習施設を利用する「高校生体験学習」と本学教員が高校に出向く出前講義を行いました。

平成 30 年度の高校生体験学習の実施状況は次のとおりです。

	実施日	高等学校	担当教員
体験学習	平成 30 年 8 月 9 日(木)	山口県立宇部高等学校	薬学部薬学科　松永浩文　教授
	平成 30 年 8 月 10 日(金)	山口県立小野田高等学校	薬学部薬学科　武田健　教授
	平成 30 年 8 月 24 日(金)	山口県立山口高等学校	工学部機械工学科　海野徳幸　講師 工学部電気工学科　阿武宏明　教授 工学部電気工学科　高頭孝毅　教授 工学部応用化学科　井口眞　教授 工学部応用化学科　星肇　教授 薬学部薬学科　緒方浩二　教授
	平成 30 年 9 月 10 日(月)	山口県立下関西高等学校	薬学部薬学科　松永浩文　教授
	平成 30 年 9 月 18 日(火)	山口県私立宇部フロンティア大学付属香川高等学校	薬学部薬学科　立花研　准教授 共通教育センター　金田和博　教授
	平成 30 年 9 月 18 日(火) 平成 30 年 9 月 28 日(金)	山口県立下関中等教育学校	工学部応用化学科　井口眞　教授 薬学部薬学科　沖田直之　講師 共通教育センター　見山友裕　教授 共通教育センター　木村良一　准教授
	平成 30 年 10 月 23 日(火)	山口県立小野田高等学校	薬学部薬学科　武藤純平　准教授
	平成 30 年 11 月 14 日(水)	山口県立小野田工業高等学校	工学部電気工学科　高頭孝毅　教授 工学部電気工学科　森田廣　教授 工学部電気工学科　井上啓　教授 工学部電気工学科　大嶋伸明　講師
	平成 30 年 12 月 11 日(火)	山口県私立誠英高等学校	工学部応用化学科　岩館寛大　准教授 共通教育センター　金田和博　教授








平成 30 年度の出前講義の実施状況は次のとおりです。

	実施日	高等学校	担当教員
出前講義	平成 30 年 5 月 24 日(木)	山口県立光高等学校	薬学部薬学科　嶋本顕　教授
	平成 30 年 6 月 18 日(月)	山口県立小野田高等学校	薬学部薬学科　松永浩文　教授
	平成 30 年 7 月 17 日(火)	山口県私立宇部フロンティア大学付属香川高等学校	薬学部薬学科　井上幸江　教授
	平成 30 年 9 月 10 日(月)	山口県立下関南高等学校	薬学部薬学科　松永浩文　教授
	平成 30 年 9 月 25 日(火)	山口県立厚狭高等学校	薬学部薬学科　嶋本顕　教授
	平成 30 年 10 月 19 日(金)	山口県立下関西高等学校	薬学部薬学科　松永浩文　教授
	平成 30 年 11 月 13 日(火)	山口県立下関中等教育学校	薬学部薬学科　井上幸江　教授
	平成 30 年 12 月 1 日(土)	福岡県私立九州国際大学付属高等学校	薬学部薬学科　伊豫田拓也　准教授
	平成 30 年 12 月 5 日(水)	山口県立宇部工業高等学校	工学部応用化学科　岩館寛大　教授
	平成 31 年 2 月 14 日(木)	山口県立柳井高等学校	薬学部薬学科　緒方浩二　教授
	平成 31 年 3 月 4 日(月)	山口県私立サビエル高等学校	薬学部薬学科　井上幸江　教授

(4) 教員免許状更新講習

開催日：平成 30 年 8 月 18 日（土）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：共通教育センター　吉村高男　教授

内　容：「最近の科学的な自然観について」

小学校、中学校（理科）、高等学校（理科）の教員を対象に、最新の知識・技能を身に付け、これらの資質・能力の向上に資すると同時に、新学習指導要領に対応した「深い学び」に繋がる理科教育の展開例を示しました。特にガリレオの斜面実験をはじめ、物質の階層性におけるミクロ（素粒子）とマクロ（宇宙）の世界が同一の物理法則で繋がることなどを、各種実験、及び観測データ等を示しながら講義・演習を交えて実施しました。

この更新演習会には 2 名の参加がありました。

(5) 化学分析指導者講習会

開催日：平成 30 年 7 月 5 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：工学部応用化学科　池上啓太　准教授

主　催：山口県工業教育研究会

内　容：山口県工業教育研究会主催の化学分析指導者講習会が本学にて開催されました。この講習会は、化学分析に関する幅広い知識・技術を習得することにより、工業化学系教員の指導力の向上を図ることを目的とし、県内工業化学系教員が参加しました。当日は、本学工学部応用化学科の池上啓太准教授による「水素エネルギーの現状と未来」と題した講義が行われました。講義の後、参加者は池上研究室及び薬学校舎の質量分析機器室・ＮＭＲ室等を見学し、実際に装置を見ながら説明を受け、より一層理解を深めていました。





(6) ＰＴＡ大学見学会

開催日：平成 30 年 10 月 11 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山口県立高森高等学校ＰＴＡによる大学見学会を開催しました。当日は 40 名のＰＴＡが来学し、大学の概要説明を行ったのちに、キャンパス見学を行いました。





４．産業界への貢献

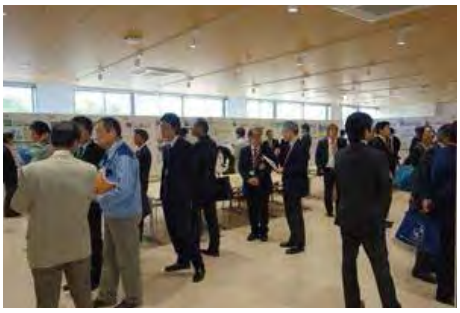
(1) 研究・技術公開

開催日：平成 30 年 11 月 1 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

主　催：山陽小野田市立山口東京理科大学地域連携センター

内　容：大学の研究成果を知的資源として還元し、地域産業の発展に寄与することを目的としたイベントです。はじめに、森田廣学長から本学は産学連携の窓を広く開けて、産学連携に取り組んで行きたいとの挨拶に続き、「産業応用ドローン技術の開発：工学部　電気工学科・吉岡 健教授」「超高温・高圧キャビテーションによる表面改質技術：工学部　機械工学科・吉村 敏彦教授」「機能性食品（材料）の抗酸化活性評価：薬学部　薬学科・和田 光弘教授」の 3 件の技術紹介を行いました。その後、会場を移し、工学部、薬学部及び共通教育センターから 35 の研究シーズのポスター展示、企業の方と教員との熱心なディスカッションがありました。また、研究室見学ツアーも実施し、「応用化学科・井口研究室」「薬学部薬学科・嶋本研究室」「研究機器センター」の 3 か所を回り、担当教員が研究内容等を説明しました。当日は 33 名の参加があり、参加者からは多くの質問が出て、教員が丁寧に回答する場面が見られました。





(2) 技術相談会

開催日：平成 30 年 11 月 1 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

主　催：山陽小野田市立山口東京理科大学地域連携センター

内　容：研究・技術公開と同時開催で、地元企業及び地域産業界のニーズとのマッチングを行う技術相談会を開催しました。事前にお問い合わせいただいた地元企業の方が産学連携の共同研究の相談や機器センターの装置の利用に関する相談に訪れていました。

(3) やまぐち産業維新展

開催日：平成 30 年 9 月 17 日（月）・18 日（火）

場　所：山口きらら博記念公園

内　容：山口県内企業の優れた製品の紹介及び技術の利用促進を目的として、県内企業等約 160 社が一堂に会する県内最大級の産業イベント「やまぐち産業維新展」に出展。本学のブースには 2 日間で 200 名を超える来場者にお立ち寄りいただきました。

出　展：工学部応用化学科　白石幸英　教授

「超分子シクロデキストリンを利用した低カリウムレタスの水耕栽培」





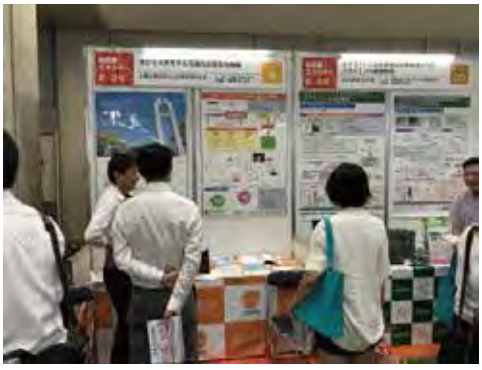
(4) イノベーション・ジャパン 2018

開催日：平成 30 年 8 月 30 日（木）・31 日（金）

場　所：東京国際展示場

担　当：工学部応用化学科　池上啓太　准教授

内　容：「未来の新産業創出」をテーマに、日本全国の大学・工業高等専門学校やベンチャー企業等が研究開発の成果を展示・発表する日本最大級のビジネスマッチングイベント「イノベーション・ジャパン 2018 ～大学見本市＆ビジネスマッチング～」に工学部 応用化学科 池上啓太 准教授の「水から水素を作る可視光応答型光触媒」を出展しました。500 を超える団体が出展する中、本学のブースには 2 日間で 200 名を超える来場者にお立ち寄りいただきました。





(5) 研究機器の開放

研究機器センターに設置している大型の測定装置、分析装置を企業に開放しています。平成 30 年度の企業等の利用状況は次のとおりです。

利用企業数	利用回数
4 社	11 回

(6) 研究シーズ集の発刊

地域が抱える課題解決のヒントや企業の新規事業創出の一助になることを願い「研究シーズ集」を制作し、市内外の関係機関に配付しています。また、同じ内容は本学 WEB サイトに掲載しています。

＜研究シーズ集 URL＞

http://www.socu.ac.jp/laboratory/regional-collaboration/seeds.html

(7) 商工会議所会報による大学技術紹介

地元企業の皆様に、本学の研究技術を知っていただく機会の一つとして、小野田商工会議所、山陽商工会議所の会報に、毎月本学の研究技術を紹介する記事を連載させていただきました。平成 30 年度に掲載した内容は次のとおりです。

テーマ	担当教員
振動分光法と材料分析	工学部応用化学科　橋本慎二　教授
化学物質の新機能の探索	共通教育センター　吉見陽児　講師
機械製品における公差設計に関する研究の紹介	工学部機械工学科　大塚章正　講師
柔らかい電気電子デバイスの研究開発	工学部電気工学科　穐本光弘　講師
Tailor-Made な非安定化カルボニルイリドの発生とテトラヒドロフラン誘導体の一段階合成法の紹介	工学部応用化学科　北條信　教授
沸騰現象を使った次世代電子機器向け先進冷却技術	工学部機械工学科　海野徳幸　講師
環境変化に応答するスマートウインドウの開発	工学部電気工学科　合田和矢　講師
光エネルギー変換材料、光機能材料	工学部応用化学科　星肇　教授
コンピュータ利用のものづくり・計測・制御・プログラミング教育	共通教育センター　見山友裕　教授
本質的な信頼性確保と高付加価値化に向けた機構解析	工学部機械工学科　吉田和司　教授
地域連携センターの役割	地域連携室
電気エネルギーを身近にある新しい方法で生み出す研究	工学部電気工学科　森田廣　教授

(8) 産学官連携セミナー「山口東京理科大学との連携による地域づくり」

開催日：平成 30 年 10 月 26 日（金）

場　所：山陽小野田市商工センター

講　師：森田廣　学長

主　催：山陽小野田市

内　容：山陽小野田市、小野田商工会議所、山陽商工会議所、山陽小野田市立山口東京理科大学が協力し、産学官連携に興味がある企業を対象に、実際に大学等との共同研究を実施した企業から、産学官連携のメリットや具体的な取組事例を紹介する産学官連携セミナー「山口東京理科大学との連携による地域づくり」を開催しました。当日は森田学長から本学における産学官連携の取組について紹介しました。

(9) やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議 シーズ発表

開催日：平成 31 年 1 月 18 日（金）

場　所：海峡メッセ下関

出　展：「作製が容易で簡便なマルチチャンネル検査試験紙の開発」

共通教育センター　浅野比　講師

主　催：やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議

内　容：地域イノベーションの創出に向けて，県内の研究機関（大学，高専，公設試，他）の技術・研究成果（シーズ）及び事業化支援機関の支援メニューを地域企業に紹介する「やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議」が主催するシーズ発表会に参加しました。本学からは浅野講師が開発している目的成分を簡便に定量する検査試験紙について産学連携コーディネータが紹介しました。





５．地域団体への貢献

(1) 地元の皆様のための特別見学会

開催日：平成 30 年 8 月 5 日（日）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：大学近隣の須恵東、須田の木、東須田の木、笹尾東、笹尾西自治会の皆様を対象に、大学見学会を開催しました。はじめに池北雅彦理事長から挨拶があり、その後、武田薬学部長による薬学部施設の見学ツアーを行いました。





(2) 社会福祉協議会の大学見学会

開催日：平成 30 年 11 月 21 日（水）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田市須恵地区社会福祉協議会の皆様に対する大学説明・見学会を開催し 22 名が参加しました。森田学長から「社会に役立つ研究をしている工学部と人の健康を守る役割を担う薬学部とが一丸となって町全体を豊かにしていくためにも地域の皆様には是非大学を勉強や趣味に活用していただきたい。」との挨拶の後、新設された薬学部棟の実習室をご覧いただき、図書館本館では山口県大学ミュージアム・ライブラリー連携特別展が開催中で、協議会の皆様は生薬にかかわる貴重な展示品に目を奪われていました。施設見学後、「きらきら食堂」で昼食をとられ、「とてもバランスのとれたおいしい食事だった」と感想をいただきました。





(3) 高千帆公民館大学見学会

開催日：平成 30 年 9 月 20 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田市高千帆公民館主催講座「高千帆大学」の一環として 22 名の方が来学されました。森田学長から「勉強や趣味に是非大学を活用してください。ここは"皆さんの大学"です。」と挨拶があった後、施設見学では、新設された校舎をご覧いただきました。学生が日頃授業を受けている教室に入った参加者は、ご自身の学生時代と現在を比べ、話に花を咲かせていました。見学を終えた参加者からは「こういう機会がないと、大学に足を踏み入れることがなかったので、本日は良い経験をさせていただきました。」「大学がある本市を誇りに思います。これからも頑張ってください。」等、感想をいただきました。





(4) 有帆公民館大学見学会

開催日：平成 30 年 11 月 26 日（月）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田市有帆公民館の方 20 名が来学されました。新設された 6、7 号館の 5 階からの景色には、「こんなに見晴らしの良い場所は他にはない」と感動されていました。カフェテリアでは、食堂の中を見学し、公民館の方々は口をそろえて「今度は是非、食事をしたい」と言われていました。





(5) 出合公民館大学見学会

開催日：平成 30 年 7 月 17 日（火）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田市出合公民館主催講座「であい塾」の方 29 名が来学しました。「であい塾」は出合地区住民を対象とした教養講座として活動しており、平成 30 年度はその一コマとして本学の施設や地域との連携、新設した薬学部の様子等について、説明や見学を通して見聞を広めることを目的として開催されました。森田学長から「本学は、地域の皆様に頼ってもらえる存在でありたいです。」と挨拶があった後、大学事務部による本学の紹介をいたしました。少人数ならではのきめ細やかな学習指導、学生の卒業後の進路、西日本初の公立薬学部としての 3 つの特色、等、どの説明にも参加者は大きくうなずきながら、真剣に耳を傾けていました。施設見学では、新設された薬学部校舎や工学部の図書館等をご覧いただきました。





(6) りゅうみんネット懇談会

開催日：平成 30 年 8 月 1 日（水）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：「学長からのご挨拶～これからの教育と本学～」
森田廣　学長

内　容：毎年本学を会場に開催される、山陽小野田市立竜王中学校、赤崎小学校、本山小学校地区の教職員やＰＴＡ関係者が参加するりゅうみんネット懇談会において、本学学長による講演を行いました。

(7) 防府市青少年科学館サイエンスアカデミー

開催日：平成 30 年 7 月 15 日（日）

場　所：防府市青少年科学館

講　師：「見える？見えない？偏光板の光」
　　工学部電気工学科　高頭孝毅　教授

内　容：青少年の科学する心を育み、未来への夢や希望を抱かせる体験型学習として、防府市青少年科学館が主催する「サイエンスアカデミー」に、出展し、幼児から中学生までを対象とした科学教室を行いました。

(8) 第９回ＳＯＳ健康フェスタ

開催日：平成 30 年 11 月 18 日

場　所：厚狭地区総合複合施設

主　催：ＳＯＳかたつむりで行こう会

内　容：ＳＯＳ（SANYO ONODA STATION）かたつむりで行こう会主催のＳＯＳ健康フェスタにおいて、本学薬学部の紹介パネルを展示しました。



６．学生による地域貢献

(1) 薬学部生が「山口ゆめ花博」で薬草を紹介

開催日：平成 30 年 9 月 14 日（金）～11 月 4 日（日）

場　所：山口きらら博記念公園

内　容：国内最大級の花と緑の祭典である「第 35 回全国都市緑化やまぐちフェア・山口ゆめ花博」に、学生有志が薬草のプレートを出展しました。プレートには、薬用植物の解説とクイズが書かれ、多くの来場者の皆様が立ち止まり、楽しそうに薬草のクイズを見ておられました。また、10 月 13 日（土）には、特設ステージにて「学生による薬草クイズ大会」が催されました。











(2) キャンパスクリーンキャンペーン

開催日：平成 30 年 6 月 7 日（木）（80 名）

　　平成 30 年 10 月 30 日（火）・31 日（水）（150 名）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学及び大学周辺通学路

内　容：キャンパスクリーンキャンペーンは、学生・教職員のボランティアによる清掃活動で、「やまぐちの美しい里山・海づくり条例」に基づく環境美化活動促進に合わせて行い、環境美化に対する意識をより高める取り組みとして行っています。ＪＲ雀田駅から大学までの通学路及び大学の周辺を中心に、ゴミ、タバコの吸い殻、空き缶、雑草等を回収し、回収後はゴミの分別を行いました。




(3) 海岸清掃エコツアー

開催日：平成 30 年 5 月 27 日（日）

場　所：山陽小野田市・宇部市の海岸

内　容：山陽小野田市の海岸を始め、山口県内の海岸の清掃を行う、海岸清掃エコツアーに、本学の工学部、薬学部の学生ボランティア 13 名が参加しました。この海岸清掃は、山口県内 12 大学で構成する「山口県エコキャンパス取組推進協議会」が主催したもので、他大学の学生と交流しながら、海岸漂着物の現状を知り、ごみ減量や分別・リサイクルについての理解を深め、環境にやさしいライフスタイルについて考える取り組みです。今年は長門市内の海岸を清掃し、ペットボトルやプラスチックごみ、ビニール袋など漂流ごみを拾い集める海岸清掃の実施とともに、漂着ペットボトルの国別調査やゴミの計量などを行いました。





(4) 理科大警備隊部による「児童の通学路の見守り活動」

開催日：平成 30 年 10 月 22 日（月）

場　所：山陽小野田警察署前

内　容：山陽小野田警察署の前で、警察官や地域のボランティア、本学クラブ活動団体の理科大警備隊部の学生たち 5 名が、「おはよう」「気をつけて」と声をかけ、登校する児童の見守り活動を実施しました。

顧　問：工学部電気工学科　穐本光弘　講師



(5) 学生ボランティアによるＪＲ雀田駅環境整備

開催日：平成 30 年 8 月 1 日

場　所：ＪＲ雀田駅

内　容：一般社団法人小野田青年会議所は、創立 55 周年記念事業として本学最寄り駅である雀田駅と周辺の環境整備に取り組み、8 月 1 日に完工式が同駅で開催されました。今回の雀田駅改修事業では、本学の学生有志 25 人も駅舎を塗り替える作業にボランティアで参加するなど、産官学民一体となり進められました。新しくなった雀田駅は、本学の最寄駅にふさわしく、本学のスクールカラーでもあるだいだい色が目を引く外観へとリニューアルしました。





(6) 西部ふれあい祭り

開催日：平成 30 年 5 月 19 日（土）

場　所：竜王山オートキャンプ場（山陽小野田市）

内　容：山陽小野田市の竜王山オートキャンプ場を会場に、西部石油株式会社が主催する「西部ふれあい祭り」に、山口東京理科大学ブースを出展しました。当日は自動車部による小型レーシングカーの展示、アプリ開発研究部による自作のアプリ・ゲーム体験を行い、地域の多くの子供たちでにぎわいました。

顧　問：（自動車部）工学部機械工学科　貴島孝雄　教授
（アプリ開発研究部）工学部電気工学科　高頭孝毅　教授





(7) 天神おんな神輿

開催日：平成 30 年 11 月 25 日（日）

場　所：防府天満宮

内　容：「天神おんな神輿」に、本学の女子学生 3 名が参加し、ルルサス防府から防府天満宮までの道のりを練り歩きました。



(8) 山陽小野田市民カーニバル「おんなみこし」

開催日：平成 30 年 10 月 21 日（日）

場　所：山陽小野田市サッカー場

内　容：山陽小野田市民カーニバルにおいて、みこしを担いで練り歩く「おんなみこし」に、本学の女子学生 6 人が参加し、沿道から大きな拍手を受けました。また、本学学園祭を主催する竜王祭実行委員会の学生たちも、ボランティアとして参加しました。

(9) All Tea Garden 部による「理科大かたつむりカフェ」

開催日：平成 30 年 10 月 11 日（木）

場　所：きらら交流館

内　容：山陽小野田市が日本一健康なまちづくりをめざして策定した行政と市民の行動計画の一つとして、健康の情報を共有し、交流できる場を提供し、年をとっても、地域社会でいつまでも暮らせる地域包括ケアの一環として取り組んでいる「かたつむりで行こう会」において、本学クラブ活動団体の茶研究サークル All Tea Garden の学生たちが「理科大かたつむりカフェ」を行いました。カフェでは、地域の皆さまにコーヒーの「マイルドブレンド」とハーブティーの「エキナセア&カモミールブレンド」を提供しました。70 名の地域の方々にコーヒー、ハーブティーを楽しんでいただき、フリートークに花を咲かせ、親交を深めました。

顧　問：工学部電気工学科　森田廣　教授





(10) All Tea Garden 部による「ふれあいまつり理科大カフェ」

開催日：平成 30 年 11 月 4 日（日）

場　所：生協小野田診療所

内　容：生協小野田診療所にて「ふれあいまつり」に参加しました。コーヒーは「自家焙煎コロンビア」、紅茶は「レディグレイ」を提供しました。本格的なドリッパーとティーポットで抽出していたので、お客様から「普通のコーヒーとは一味違っていて、美味しい」とお褒めの言葉を頂きました。

顧　問：工学部電気工学科　森田廣　教授

(11) 写真サークルによる「学生フォトリレー山口写真館」

開催日：平成 31 年 2 月 22 日（金）

内　容：本学写真サークルの繁成拓渡さん（工学部電気工学科 3 年）と伊藤凌大さん（薬学部薬学科 1 年）が撮影した写真が、山口県魅力発信サイト・きらりんくの「学生フォトリレー山口写真館」で紹介されました。「学生フォトリレー山口写真館」とは、大学や専門学校の学生が、県内で撮影したオススメ写真を紹介するコーナーです。写真サークルの繁成さんと伊藤さんは、「大学周辺の景色」と題して、本学周辺にある名所や最寄駅の雀田駅、宇部市の工場夜景などを大変綺麗な写真と共に紹介しています。山口県魅力発信サイト・きらりんくの「学生フォトリレー山口写真館」は、こちら、または下記 URL からご覧ください。

https://kiralink.pref.yamaguchi.lg.jp/201902/photorelay/index.html

(12) 図書館フェスティバル

開催日：平成 30 年 11 月 25 日（日）

場　所：山陽小野田市立中央図書館

内　容：本学のクラブ活動団体であるＨＭＳ（Hand Made Science）部の学生たちが、山陽小野田市立図書館フェスティバル（来場者 1,785 名）において、「おもしろ科学大実験」を行いました。また、自動車部は「フォーミュラカー展示」、All Tea Garden は「コーヒーショップ」、フィルハーモニー交響楽団は演奏で会場を盛り上げ、音響のサポートに軽音楽部が参加しました。

顧　問：（All Tea Garden）工学部電気工学科　森田廣　教授
（自動車部）工学部機械工学科　貴島孝雄　教授
（フィルハーモニー交響楽団）共通教育センター　村田貴信　教授
（軽音楽部）共通教育センター　木村良一　准教授
（ＨＭＳ部）工学部応用化学科　佐伯政俊　講師





(13) 竜王祭

開催日：平成 30 年 10 月 7 日（日）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：竜王祭実行委員の学生が企画から運営まで行う竜王祭を開催し、学生や卒業生、地域の方々が大勢集まりました。今年のテーマは「New Generation」と掲げ、今年度から新設された薬学部や新入生への大きな期待と新たな出会いや本学でしかできない経験をしてほしいという意味が込められています。模擬店や工作教室、餅まき、ライブなどイベントは多岐にわたりました。また、地域への参加も募り、自衛隊音楽隊など多くの方に参加いただき、山陽小野田市出身の兄弟デュオ「SORGENTI（ソルジェンティ）」ライブが行われました。





(14) ボードゲーム部による「スマイルキッズ活動」

開催日：平成 30 年 12 月 2 日（日）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：本学のクラブ活動団体であるボードゲーム部の学生たちが、山陽小野田市子育て総合支援センターと連携し、児童たちとボードゲームを楽しむ「スマイルキッズ活動」に取り組みました。



(15) 住吉まつりでの「龍舞」披露

開催日：平成 30 年 5 月 26 日（土）・27 日（日）

場　所：住吉神社及び周辺沿道（山陽小野田市東住吉町）

内　容：山陽小野田市住吉地区にて行われる「復活！住吉まつり」において、本学の学生たちが、玉を追いかける龍の様子を模している「龍舞」を披露しました。子どもエリアでは、HMS（Hand Made Science）部が子ども向け科学実験、自動車部は小型レーシングカーの展示、ロボット・メカトロニクス部はワイヤーで作ったコースに電極棒を入れてゴールを目指すイライラ棒ゲーム、アプリ開発研究部は自作のアプリの展示と体験、All Tea Garden はお茶の試飲などを担当し、多くの子供たちでにぎわっていました。その他、前夜祭・本祭とも学生有志によるボランティアも参加し、ステージ運営をはじめ様々な形でお手伝いしました。





顧　問：(All Tea Garden) 工学部電気工学科　森田廣　教授
(自動車部) 工学部機械工学科　貴島孝雄　教授
(アプリ開発研究部) 工学部電気工学科　高頭孝毅　教授
(ロボット・メカトロニクス部) 工学部機械工学科　池田毅　講師
(ＨＭＳ部) 工学部応用化学科　佐伯政俊　講師

７．学生の研究成果による貢献

(1) 地域防災 GIS 活動

開催日：平成 30 年 4 月 20 日（金)、5 月 21 日（月)、8 月 19 日（日）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学、竜王山公園、若山公園、高泊等

内　容：工学部電気工学科の学生が、地域・地理情報システム（ＧＩＳ：Geographic Information System）活動に取り組んでいます。山陽小野田市内を歩いて収集した情報を WEB 上の地図（Open street map）に追加し作成した電子地図を地域の防災に活用する取り組みを行いました。

顧　問：工学部電気工学科　井上啓　教授
工学部電気工学科　山本頼弥　助教

(2) enPiT ビジネスシステムデザイン

開催日：平成 30 年 5 月 1 日～平成 31 年 2 月 21 日（木）

場　所：山口大学、筑波大学

内　容：enPiT とは成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成という文部科学省の事業で、山口大学が enPiT ビジネスデザイン分野(通称：BizSysD)の連携大学の一つとなっています。本学チームは、山口大学の参加校として、山口大学（4 チーム)、東京都市大学（1 チーム)、宇部工業高等専門学校（1 チーム)、大島商船高等専門学校（1 チーム）らとともに 8 ヶ月間に渡り勉強会や合宿に参加、学生自ら市場調査、事業計画書の作成を行い、アプリとして個人経営店向けのサービス券電子化システム「Uni-ca」を開発しました。本学のチーム（3 名）は、最終成果報告会で最優秀チームとして選抜され、全国大会 BizSysD 分野ワークショップ（筑波大学、平成 31 年 2 月 21 日）に出場し、敢闘賞を受賞しました。今後は、宇部市と連携し「Uni-ca」の実用化に向けた協議を進めていく予定です。

顧　問：工学部電気工学科　井上　啓　教授、山本頼弥　助教





(3) デマンド交通システムのシミュレーター開発

開催日：平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田市は山陽小野田市厚狭北部地域地区のサービス向上を目指し、デマンド交通システムを運用しています。工学部電気工学科井上研究室では、山陽小野田市商工労働課と連携して、同システムを支援するソフトウェアを開発しています。平成 30 年度は、工学部電気工学科 4 年生が、卒業研究として、「山陽小野田市のデマンド交通システムにおける巡回経路探索および表示のための QGIS プラグインの改良」に関する研究に取組み、デマンド型交通サービスの担当者と運用者の利便性を向上させるための機能改良及び機能追加を行いました。

指導教員：工学部電気工学科　井上啓　教授

８．地域の知を教育に生かす取り組み

(1) 地域卒業研究

工学部の卒業研究において、学生が地域に関する研究テーマに取り組んでいます。

平成 30 年度には次のテーマに取り組みました。本学では、地域に関する卒業研究を奨励しており、地域卒業研究に取り組む研究室には、学長から実験実習費の加算配分を行っています。「地域に関わる教育・研究成果の展示」を山陽小野田市役所、厚狭地区複合施設、山陽小野田市立中央図書館にて巡回展示を行いました。

研究テーマ	研究室
CFD 解析を用いた攪拌羽根周りの数値シミュレーション	工学部機械工学科　結城研究室
ポーラス充填管を用いた過熱蒸気急速生成の実証実験	工学部機械工学科　結城研究室
山陽小野田市のオンデマンド交通における巡回経路探索および表示のための QGIS プラグインの改良	工学部電気工学科　井上研究室
山陽小野田市の AED 設置データ分析	工学部電気工学科　井上研究室
DIG に対応した防災 AR アプリのカスタマイズ	工学部電気工学科　井上研究室
植物の光合成による微生物の長期生存を図った微生物燃料電池の長寿命化研究	工学部電気工学科　森田研究室
弱風でも高効率の発電が可能な風レンズ効果を用いた風力発電風車の改良研究	工学部電気工学科　森田研究室
山陽小野田市における PM2.5 の高濃度現象について	工学部応用化学科　白石研究室

(2) リーダーシップ論

地元産業界のリーダーを講師として招き、討論と分析・発表等を行いながら幅広い視野と分析力、意思決定力、問題解決力等を養います。



山口県前副知事
西村　亘 氏



山陽小野田市長
藤田剛二 氏

(3) 地域技術学

小野田商工会議所、山陽商工会議所の協力を得て、地元企業が抱えている技術的な課題について、SWOT 分析や KJ 法等を活用しながら、その解決手段をグループワークにより検討し、総括としてその発表を行う授業です。平成 30 年度は、次の 5 社から技術的な課題をいただきました。

大阪新薬株式会社／長州産業株式会社／都市産業株式会社／嶋田工業株式会社／株式会社明防








(4) 地域産業論

山陽小野田市、宇部市の他、山口県の中小企業の状況と経済について共通教育センター 見山友裕教授が講義を行いました。さらに、電気工学科 吉岡健教授と機械工学科 貴島孝雄教授がものづくりに関するご自身の専門について経験談を話されました。

また、山口県内の企業 2 社による自社紹介の講演を行ない、地域産業に関する理解を深めました。

(5) 地域社会学

地域社会学の専門家である熊本大学文学部 山本 努教授を非常勤講師としてお招きし、学生たちは地域社会学の基礎的知識と現代における実践的な研究（まちづくりの事例）について学び、地域課題を考える姿勢を身につけました。平成 30 年度には「学生の経済状況は学生生活に影響するか？」「大学生、卒業後どこへ行く」等のテーマに取り組みました。

(6) 市内企業インターンシップ

山陽小野田市内に立地する企業において、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、市内企業インターンシップに積極的に学生が参加しています。平成 30 年度は市内企業 14 社に対して 29 名がインターンシップに参加しました。

＜市内企業インターンシップ先＞

宇部フィルム株式会社／FDK 株式会社山陽工場／株式会社オーネックス山口工場／株式会社オノダネイル／化薬ヌーリオン株式会社厚狭工場／光洋技研株式会社山口工場／山陽小野田市役所／山陽小野田市立中央図書館／山陽小野田水道局／西部石油株式会社山口製油所／天馬株式会社山口工場／日産化学株式会社小野田工場／株式会社花の海／富士商株式会社

(7) 市内企業見学バスツアー

開催日：平成 30 年 9 月 19 日（水）

訪問先：日本化薬株式会社／ＴＨＫ株式会社／中国電力株式会社

内　容：山陽小野田市の産業や地元企業の魅力について学生の理解を深めるため、工学部の学生を対象として市内の主要な企業を巡るバスツアーを実施しています。平成 30 年度には 3 社を 23 名が訪問し、学生たちが大学で学んでいることが、どのように企業で活かされているか目の当たりにし、意欲的に企業研究に取り組んでいました。





(8) 市内企業製造工程見学

開催日：平成 30 年 7 月 25 日（水）

場　所：長州産業株式会社

内　容：工学部電気工学科 3 年生 60 名が、実験科目「電気工学実験Ⅱ」の学外学習として地元企業の長州産業株式会社を訪問し、先進的な太陽光発電システムや水素製造装置を見学しました。会社概要について説明を受けた後に、新進気鋭の若手技術者による「エンジニアの仕事」と題して講義を聴講、会社における研究開発の経験に基づいた学生へのアドバイスをいただきました。その後、会社の主力事業である太陽光発電パネルが完成する工程を見学し、太陽光発電で水から水素を製造し、燃料電池車（FCV）に供給する小型の太陽光水素ステーション「SHiPS」の見学、説明を受けました。





(9) 県内企業インターンシップ

山口県内に立地する企業を対象に、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、県内企業インターンシップに積極的に学生が参加しています。平成 30 年度は県内企業 56 社に対して 93 名がインターンシップに参加しました。

(10) ボランティア活動

市内を中心とした行事等に積極的に参加し、地域貢献、地域振興を図ることを通して、社会人基礎力を養うことを目的し、学生へボランティア活動の紹介を行っています。ボランティア活動に参加した学生は、一定の要件を満たす場合は、単位の認定を行っています。平成 30 年度には、次のとおり学生ボランティアの紹介を行いました。

日程	ボランティアの内容	参加者数
5 月 27 日（日）	海岸清掃及び漂流物調査	13 名
7 月 7 日（土）～4 日間	JR 小野田線雀田駅周辺整備事業	20 名
10 月 13、14 日（土、日）	赤崎地区ふれあい祭の会場設営及び運営補助	12 名
11 月 25 日（日）	献血・献眼登録の PR 活動	7 名
2 月 14 日（木）	医薬品適正使用に関する実験教室の運営補助	12 名




(11) 地域イノベーション戦略支援プログラム

研究者：工学部応用化学科　池上啓太　准教授

内　容：文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラム（採択：山口県）に、本学は実施機関として参画し、地域イノベーション戦略の中核を担う研究者を集積して、「光触媒による水素製造技術の開発」及び「二酸化炭素の固定化及び炭化水素化合物変換技術」研究開発を推進しました。

(12) 山陽小野田市消費生活セミナー

開催日：平成 30 年 9 月 20 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：山陽小野田市消費生活センター

内　容：学生を対象に消費生活セミナーを開催し、約 100 名の学生が参加しました。このセミナーは、山陽小野田市による「住まいる奨励金制度」が始まることを踏まえ、学生が消費トラブルに巻き込まれないようにするために開催したもので、「身近にひそむ消費者トラブル」と題して、契約に関する基礎的な内容から具体的なトラブル事例など分かりやすく紹介していただきました。




(13) 食育セミナー

開催日：平成 30 年 12 月 6 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：山陽小野田市食生活改善推進協議会

内　容：学生が健全な学生生活を送ることを目的に、山陽小野田市健康増進課と連携して食育セミナーを行いました。先着 30 名の試食も行われ、「朝食をしっかり食べること」「偏った食べ方をしないでバランスのよく食べること」で健康を維持していくための方法を学びました。





(14) 行政薬剤師体験実習

開催日：平成 30 年 6 月 7 日（木）、12 日（火）、14 日（木）（計 3 日間）

場　所：山口県庁、葵庁舎、大歳庁舎

内　容：早期体験実習の一環として、行政薬剤師（薬学人）が活躍する医療、保健、衛生、行政の現場を見学し、ディスカッションを行いました。





(15) 県内製薬企業見学会

開催日：平成 30 年 9 月 26 日

場　所：協和発酵キリン株式会社宇部工場

内　容：医薬品の製造過程を見学し、医薬品の持つ特性に応じた厳しい製造・品質管理など県内の製薬企業が果たしている役割を学ぶことで、将来の活躍の場の一つである県内の製薬企業について理解・関心を深めることを目的に、見学しました。

(16) 学術と地域文化

薬学部において、地域を理解し、物事を多角的にみる能力を養うことを目的に、外部講師を招聘する学術と地域文化を開講し、あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する人の話を聞き、人文科学、社会科学および自然科学などを広く学びました。平成 30 年度のテーマと講師は次のとおりです。

テーマ	講　師
グラウンドで学ぶ人生の知恵 ～国家試験 100%合格のためのチームワークをつくろう～	東京理科大学名誉教授・日本幼少時健康教育学会会長　丸山克俊　様
花と薬草	・宇部空港ビルサービス㈱環境衛生課造園　林哲夫　様、林君子　様 ・第 35 回全国都市緑化やまぐちフェア実行委員会事務局長　師井努　様 ・山陽小野田市立山口東京理科大学薬用植物園管理者　矢原正治　特命教授
人口減少に、私たちはどう立ち向かうか ～地域、そして日本の明るい未来のために～	山陽小野田市立山口東京理科大学 森田廣　学長
山口県の伝統産業“萩焼”	萩陶芸協会理事、御台場窯 渋谷英一　様
社会における作家の役割とガラス文化によるまちづくり	株式会社 M.M Glass Studio 西川慎　様
一瞬を永遠に ～小倉百人一首 競技かるたの魅力～	全日本かるた協会初代永世クイーン八段 久保久美子　様
薬剤師が地域・地方を変える 第 52 回日本薬剤師学会学術大会開催について	山口県薬剤師会会長 中原靖明　様
吉田松陰	至誠館大学学長・元萩市長 野村興兒　様
山口県観光の魅力の創造と地域振興	山口県観光連盟専務理事 松井邦昭　様
後輩の皆さんに伝えたい ～社会に出てわかったこと～	武田薬品工業株式会社 黒澤修一　様

大腸がんの予防と薬学	国立がんセンター発がん・予防研究分野 ユニット長　武藤倫弘　様
新たな県づくりに向けて ～明治改元から 150 年～	山口県知事 村岡嗣政　様
製薬会社の役割と求める人材	協和発酵キリン株式会社会長 花井陳雄　様
山口県における学校薬剤師の活動	山口県学校薬剤師会理事 小林晃子　様
環境保健における薬学の役割と薬学生への期待	山口県環境保健センター所長 調恒明　様
竜王山の歴史と自然	山陽小野田語り部の会 嶋田紀和　様
山口県における医療系多職種連携の現状と薬学教育への期待	山口大学名誉教授 神谷晃　様
医療現場の現状と将来展望 ～山陽小野田市の現状を含めて～	山陽小野田市病院事業管理者・顧問 河合伸也　様
人生は邂逅なり ～菊舎に出遇う！俳句に出会う!～	菊舎顕彰会 岡昌子　様
山口の鯨文化	下関市立大学経営企画グループ長・研究員 岸本充弘　様
開作と産業のまち　小野田の歴史	小野田市文化財審議会会長 松永保美　様
心に木を植える	作家・ナチュラリスト C.W.ニコル　様
面白くて為になる 山口弁よもやま話	防府市立防府図書館館長 森川信夫　様
看護師の活動と薬学生への期待	山陽小野田市立病院看護部長 藤谷圭子　様
山口県日本酒の歴史	永山酒造合名会社社長 永山純一郎　様
健康で長生きのまちづくりフォーラム ～スマイルエイジング in 山陽小野田～	日本薬剤師会理事・東京理科大学薬学部教授　上村直樹　様
スーパードライ開発秘話	アサヒビール株式会社前生産技術センター所長　島元三雄　様

９．地方公共団体への貢献

(1) 市長による総合計画説明会

開催日：平成 30 年 4 月 23 日（月）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：山陽小野田市長　藤田剛二　氏

内　容：向こう 12 年のまちづくりの指針となる第二次山陽小野田市総合計画が策定されたことに伴い、まちづくりにおける大学が果たすべき役割を教職員で共有するために、山陽小野田市長の藤田剛二氏を招へいし「第二次山陽小野田市総合計画」の説明会を開催しました。将来都市像を「活力と笑顔あふれるまち」、まちのイメージを「スマイルシティ山陽小野田」として、住んでよかった、住みやすいと思える暮らしの創造に「シビックプライド」の観点を取り入れて取り組むことについて説明がありました。





(2) シビックプライドに関する市と大学の合同研修

開催日：平成 30 年 6 月 1 日（金）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：シビックプライド研究会代表
東京理科大学理工学部建築学科　伊藤香織　教授

内　容：山陽小野田市の管理職員と本学の教職員を対象に「シビックプライド醸成の手掛かり」をテーマに合同研修を行いました。「市民（として）の誇り」を意味するシビックプライド（civic pride）は、「このまちをより良い場所にするために自分自身がかかわっているという当事者意識に基づく誇り・自負心」を表し、郷土愛がその源泉となっています。山陽小野田市が、第２次総合計画において掲げる「活力と笑顔あふれるまち」を実現するには、シビックプライドの醸成が不可欠と捉え、市の職員と本学教職員が共に理解を深めました。





(3) 市長と学生によるスマイルトーク

開催日：平成 31 年 2 月 8 日（金）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：山陽小野田市長　藤田剛二　氏

内　容：市長が本学の学生たちとまちづくりに繋がる意見やアイデアを共有する意見交換会「スマイルトーク」を行いました。学生たちからは山陽小野田市を魅力ある街にするための意見が出され、市の職員を交えて活発な意見交換が行われました。





(4) スマイルシティ 1 日市長大学見学会

開催日：平成 30 年 8 月 22 日（水）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

担　当：工学部機械工学科　貴島孝雄　教授

薬学部薬学科　稲見圭子　教授

薬学部薬学科　望月正隆　教授

内　容：スマイルシティ山陽小野田 1 日市長体験事業の一環として、市内の中学 1 年生 6 名が「1 日市長」として来学されました。この事業は、まちの未来を担う子どもたちに楽しみながら市政への関心と理解を深めていただくことを目的としています。6 人の「1 日市長」は、学長室で森田学長と名刺交換をした後、施設見学をしました。「ものづくり工房」では、貴島教授からフォーミュラカ

一の説明を受け、薬学部では望月教授、稲見教授から有機化学系の研究室の説明を受け、初めて目にする実験器具や試薬に驚きながらも楽しんでいました。




(5) 山口県知事による特別講義

開催日：平成 30 年 7 月 17 日(火)

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：山口県知事　村岡　嗣政　氏

内　容：学薬学部の「学術と地域文化１」の授業において、村岡 嗣政山口県知事による「新たな県づくりに向けて～明治改元から１５０年～」と題した特別講義を開催しました。村岡知事からは、山口県の課題である人口減少に対する施策として定めた「やまぐち維新プラン」における、『産業・交流・生活』の３つの柱を軸とした、活力みなぎる山口県の実現に向けた取り組みについて、講話がありました。「今回の講義をきっかけに、山口県内のさまざまな事業を知ってほしい」、「有意義な学園生活を送り、視野を広げて将来進むべき道を決めてほしい」など、学生に激励のメッセージをいただきました。





(6) 山陽小野田市中央図書館フェスティバル

開催日：平成 30 年 11 月 25 日（日）

場　所：山陽小野田市立中央図書館

内　容：山陽小野田市立中央図書館フェスティバルにて、本学の学生サークルや学生ボランティアが参画。HMS（Hand Made Science）による科学実験を体験できるブースや、All Tea Garden によるコーヒーのサービス、自動車部によるフォーミュラカーの展示、フィルハーモニー交響楽団によるコンサート、軽音部による音響機器の調整ボランティアの、併せて 5 つのサークルが出展し、1,785 名の参加がありました。

(7) 市立図書館との相互利用

山陽小野田市立図書館と本学図書館との包括的連携協定に基づき、市民の学習活動に資するため、また研究者や学生の教育、研究及び学習活動に資するため、図書館資料の相互貸借を行っています。平成 30 年度の大学と市立図書館間での相互貸借による利用冊数は 18 冊です。

市立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、市立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「山陽小野田市立山口東京理科大学図書館」を選択することにより予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができます。平成 30 年度に返却窓口として利用された本は 42 冊です。

(8) 江汐公園に薬学部附属薬用植物園を開園

山陽小野田市が運営する自然公園「江汐公園」内に、薬学部附属の薬用植物園の整備を行い、平成 30 年 10 月 25 日（木）に開園記念式を執り行いました。江汐公園は約 138 万㎡という広大な公園で、江汐湖を中心とする美しい自然環境に恵まれ、四季折々の花が咲き誇る山陽小野田市の観光名所として市民に親しまれています。このたび整備された、薬学部附属の江汐公園薬用植物園は、3,000 ㎡の園内に約 400 種 1 万株の薬用植物が栽培され、大学構内の薬用植物園とともに学生の教育研究施設として利用するほか、薬草観察会など市民の生涯学習の場としても利用します。





(9) 各種委員の応嘱（行政関係）

本学における平成 30 年度の各種委員の応嘱の状況は次のとおりです。

委員会・審議会	内　　容	本学委員
山陽小野田市 PR ロゴ「スマイルマーク」作成業務コンペ審査委員会委員	山陽小野田市第二次総合計画に基づく「スマイルシティ山陽小野田」の創造に向けたまちづくりのシンボルとなるロゴマークの作成を、公募型コンペ方式により審査します。	池北雅彦　理事長
山陽小野田市 地方創生協議会委員	山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に当たり、まちづくりに関する識見を有する市民等から意見を聴取します。	森田廣　学長
山陽小野田市 都市計画審議会委員	都市計画の内容、都市計画制限、都市計画事業など都市計画に関し必要な事項を定めることにより都市の健全な発展と秩序ある整備を図ります。	森田廣　学長
山陽小野田市 シティセールス推進協議会委員	「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」の実現に向け、シティセールスを推進します。	工学部機械工学科 吉田和司　教授
山陽小野田市地域公共交通会議委員	地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃・料金等に関する事項など公共共交通網形成計画にについて協議します。	工学部電気工学科 井上啓　教授
山陽小野田市 観光関係団体ネットワーク会議委員	観光関係団体や事業所のネットワークづくりを構築します。	工学部電気工学科 井上啓　教授
山陽小野田市教育委員会 教育に関する事務の点検及び評価を行うにあたっての学識経験者	教育に関する事務の点検・評価を行うに当たり、客観性を確保するため教育に関し学識経験を有する方の知見を活用します。	工学部電気工学科 吉岡健　教授 共通教育センター 見山友裕教授
山陽小野田市 図書館協議会委員	山口東京理科大学図書館長に図書館協議会委員を委嘱しています。	工学部応用化学科 図書館長 橋本慎二　教授
山陽小野田市 健康づくり推進協議会委員	市民の実情に応じた健康づくり施策を推進します。	薬学部薬学科 武田健　教授
山陽小野田市 第２次健康増進計画検討委員会	山陽小野田市第２次健康増進計画の策定にあたり、市民の意見、提言等を反映させるために設置されています。	薬学部薬学科 武田健　教授
山陽小野田市空家等対策協議会委員	空き家の適正管理や利活用等の空き家対策を推進するため空家対策計画策定の協議を行います。	共通教育センター 金田和博 教授
山陽小野田市 小・中学校児童生徒科学研究発表会講師	平成３０年度山陽小野田市小・中学校児童生徒科学研究発表会に参加し、研究発表後の講評を行いました。	共通教育センター 金田和博　教授
山陽小野田市 情報公開審査会委員	山陽小野田市情報公開条例の公文書の公開請求の決定又は不作為に係る審査請求について審議します。	共通教育センター 村田貴信　教授
山陽小野田市 個人情報保護審査委員会委員	個人情報の開示決定又は不作為に対する審査請求について審議し、実施機関から求められた事項について意見を述べます。	共通教育センター 村田貴信　教授
山陽小野田市立 小野田中学校 学校運営協議会委員	地域のネットワークを形成し学校・家庭・地域が連携・協働することにより社会総がかりで小中９年間の子供たちの学び育ちを見守り支援します。	共通教育センター 福田廣　教授
山陽小野田市 男女共同参画審議会委員	本学から男女共同参画審議会の委員を推薦しています。	共通教育センター 池田容子　准教授

山陽小野田市英語教育推進事業委員	市内の英語教育推進に関わる小・中学校教員、ＡＬＴ、英語教育推進教員が出席し、英語教育の現状について協議します。	共通教育センター 池田容子　准教授
山陽小野田市 第２次食育推進計画検討委員会委員	山陽小野田市第２次健康増進計画の策定にあたり、市民の意見、提言等を反映させるために設置されています。	共通教育センター 浅野比　講師
山口県立 豊浦高等学校 学校運営協議会委員	保護者及び地域の学校運営への参画促進や連携強化を進め、一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組み、地域とともにある学校づくりを推進します。	森田廣　学長
山口県立 下関中等教育学校 学校運営協議会委員	国際交流活動や地元大学への１日体験訪問、大学ゼミ訪問等の高大連携を継続・発展させ、生徒の進路実現を支援します。	工学部応用化学科 井口眞　教授
山口県 全国都市緑化やまぐちフェア実行委員会委員	山口県内関係団体協力のもと、フェアの円滑な実施及び運営を図るため、全国都市緑化フェア実施要領に基づき委員会を設置する。	森田廣　学長
山口県 環境やまぐち推進会議　次世代自動車利活用部会委員	次世代自動車の利活用に係る助言・指導を行います。	工学部機械工学科 貴島孝雄　教授
山口県 環境やまぐち推進会議　EV 利活用モニター事業プロジェクトチーム	一人乗り電気自動車や電動バイクの普及について、事業の進行に係る助言・指導を行います。	工学部機械工学科 貴島孝雄　教授
山口県 環境やまぐち推進会議　電気自動車中古バッテリーリユース実証試験プロジェクトチーム	電気自動車の使用済みバッテリーのリユースにかかる助言・指導を行います。	工学部機械工学科 貴島孝雄　教授
山口県 やまぐちイノベーション推進協議会委員	山口県の強みや特性を活かした持続的なイノベーションの創出を目的とする地域イノベーション戦略を策定し、その実現に向けた主体的な取組を実施します。	工学部応用化学科 北條信　教授
山口県 やまぐち産業人材創造協議会委員	地域の産業政策と一体となった雇用創出の取組への支援策を円滑かつ効果的に実施します。	工学部応用化学科 北條信　教授
山口県 やまぐちバイオ関連産業推進協議会幹事	バイオ関連産業の育成・集積を図るための前県的推進体制として、諸般の取組を推進します。	薬学部薬学科 武田健　教授
山口県 やまぐち医療関連成長戦略推進協議会幹事	山口県の医療関連産業の育成・集積を図るための前県的推進体制として、諸般の取組を推進します。	薬学部薬学科 武田健　教授
長門市文化財保護審議会委員	市の区域内に存するすべての文化財の保存及び活用に関し、教育委員会の諮問に応じて、必要な調査及び審議を行います。	共通教育センター 吉村高男　教授

(10) 住まいる奨励金

山陽小野田市は、市内に住民票がある学生を対象に、3 万円を上限に市内の協力店約 240 店舗で利用できる経済的助成制度として「住まいる奨励金」を創設しました。本学では、学生に周知を行うとともに、奨励金の申請受付及び学生への給付を行いました。





(11) レノファに会えるまち・スマイルシェアミーティング

開催日：平成 30 年 11 月 26 日（月）、平成 30 年 12 月 5 日（水）
平成 30 年 12 月 19 日（水）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田市シティセールス課と学生による「レノファに会えるまち・スマイルシェアミーティング」を年 3 回開催しました。これは山陽小野田市が進める「レノファに会えるまちスマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて、取組方向及びサポート体制について意見交換を行いました。

10. 警察署・消防署との連携

(1) 学生消防団員

開催日：平成 30 年 4 月 23 日(月)

内　容：本学にて学生消防団員辞令交付式が行われ、5 名の学生に学生消防団員の辞令が交付されました。高齢化などで定員割れが続く消防団の活動を若い力で活性化させようと、消防団員の任用資格を市内に通学する学生も対象とすることに変更し、本学で学生消防団員を募り、初の学生消防団員として阿部消防団長より辞令を受けました。なお、5 月 1 日以降 13 名が入団しました。学生消防団員を代表し、応用化学科 3 年の松永真紀さんが「学業と消防団の活動を両立し、山陽小野田市の皆さんのために頑張ります」と決意を表明しました。





(2) 交通安全ガイダンス

開催日：平成 30 年 4 月 9 日（月）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：山陽小野田警察署

内　容：山陽小野田警察署から講師を招き「交通安全ガイダンス」を開講しました。ガイダンスでは、運転者としての心構えや飲酒運転の危険性、交通ルールを守ることの大切さなどを教えていただきました。自転車及び自動車を運転するときは「危険が潜んでいるかもしれない」という意識のもと安全運転を心がけることを教えていただきました。





(3) 交通安全講習会・薬物防止講習会

開催日：平成 30 年 9 月 27 日（木）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：山陽小野田警察署

内　容：山陽小野田警察署から講師を招き「交通安全講習会」と「薬物防止講習会」を開講しました。これは、秋の全国交通安全運動に合わせて、学内の交通安全意識を高めるとともに学生が安全安心な学生生活を送るための指導を目的として開催しました。交通安全講習会では、自転車の通行に関する規則や「ながら運転」の危険性、夜間における反射材の使用等について説明いただきました。また、飲酒が人間の行動にもたらす影響について、飲酒状態を疑似体験できるゴーグルを用いて学ぶことができました。引き続き実施した「薬物防止講習会」では、違法薬物の恐ろしさを学びました。



(4) 学生と警察署・自治会長との連携協議会

開催日：平成 30 年 5 月 17 日（木）、平成 30 年 11 月 2 日（金）、
平成 31 年 2 月 20 日（水）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：山陽小野田警察署、大学周辺自治会長、学生による連絡協議会を年 3 回開催し、護身術の講習会や地域の防犯について協議しました。安全、安心で魅力的なまちづくりに向けて、世代を超えた取り組みを行いました。





(5) 麻薬・覚醒剤乱用防止運動山口大会

開催日：平成 30 年 11 月 2 日（金）

場　所：防府市アスピラート

内　容：厚生労働省・山口県の共催による「麻薬・覚醒剤乱用防止運動山口大会」に、薬学部１年生 44 名が参加しました。本大会は、麻薬・覚醒剤等の薬物乱用による危害を広く周知し、国民一人ひとりの意識を高めることにより薬物乱用の根絶を図ることを目的としています。参加者を代表して本学薬学部１年生の萬徳菜々美さんから、「薬物乱用は、自分自身だけではなく、周りの人々にも計り知れない害悪をもたらし、全ての人から幸せを奪うものです。薬物乱用のない誰もが安心して暮らせる明るい社会を築いていくことを、ここに宣言します。」との力強い大会宣言が行われました。





(6) 防災訓練

開催日：平成 30 年 12 月 14 日（金）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講　師：宇部・山陽小野田消防局、山陽小野田市、山口防災工業株式会社

内　容：宇部・山陽小野田消防局、山陽小野田市、山口防災工業株式会社の協力のもと、防災訓練を行いました。はじめに山陽小野田市役所の方から「災害時の自助・共助について」講演いただき、宇部・山陽小野田消防局の指導のもと、実際に煙の充満した部屋で煙から避難する方法を体験しました。その後、消火機器の操作方法を実習し、防火扉・シャッターの開閉確認、AED（自動体外式除細動器）の講習会を行いました。





11. その他の取り組み

(1) 各種委員の応嘱（行政関係以外）

本学における平成 30 年度の非常勤講師・役員の応嘱の状況は次のとおりです。

氏名	従事先	従事内容
池北雅彦　理事長	千葉県立柏高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導協議員
森田廣　学長	一般社団法人電子情報技術産業協会	ディスプレイデバイス事業委員会傘下人間工学専門委員会客員
工学部機械工学科 吉田和司　教授	一般社団法人日本機械学会	「柔軟媒体ハンドリング技術の理論の技術と応用」出版分科会
工学部機械工学科 吉田和司　教授	日立インフォメーションアカデミー	日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社　社外講師
工学部機械工学科 吉田和司　教授	山口県中小企業団体中央会	審査委員
工学部機械工学科 貴島孝雄　教授	一般社団法人山口県安全運転管理者協議会	安全運転管理者等講習講師
工学部電気工学科 阿武宏明　教授	一般社団法人日本熱電学会	第 3 期理事
工学部電気工学科 高頭孝毅　教授	公益財団法人やまぐち産業振興財団	理事
工学部電気工学科 高頭孝毅　教授	地方独立行政法人山口産業技術センター	国際技術動向調査ユニットに係る委員
工学部電気工学科 山本頼弥　助教	株式会社 Progmate	研究相談役
工学部応用化学科 井口眞　教授	公益社団法人　日本化学会	中国四国支部　代表正会員
工学部応用化学科 石川敏弘　教授	山口県立宇部高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員
工学部応用化学科 石川敏弘　教授	山口県立下関西高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員
工学部応用化学科 池上啓太　准教授	一般社団法人触媒学会	西日本支部幹事
工学部応用化学科 池上啓太　准教授	長州産業株式会社	基調講演講師
薬学部薬学科 望月正隆　教授	厚生労働省労働基準局	変異原性試験等結果検討委員候補者
薬学部薬学科 望月正隆　教授	厚生労働省労働基準局	がん原性試験指示検討委員候補者
薬学部薬学科 望月正隆　教授	厚生労働省医薬・生活衛生局	厚生労働科学研究費「医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス制作事業」中間・事後評価委員会委員
薬学部薬学科 望月正隆　教授	国立医薬品食品衛生研究所	部長等選考委員会委員
薬学部薬学科 望月正隆　教授	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	AMED 課題評価委員
薬学部薬学科 望月正隆　教授	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	運営評議会委員

薬学部薬学科 望月正隆　教授	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	審査・安全業務委員会委員
薬学部薬学科 望月正隆　教授	一般社団法人薬学教育評価機構	総合評価評議会評議員
薬学部薬学科 武田健　教授	学校法人昭和薬科大学	評議員
薬学部薬学科 武田健　教授	一般財団法人日本自動車研究所	「自動車排出ガスの健康影響研究に関する専門委員会」委員
薬学部薬学科 武田健　教授	特定非営利活動法人薬学共用試験センター	財務委員会委員
薬学部薬学科 緒方浩二　教授	国立研究開発法人理化学研究所 情報システム本部	客員研究員
薬学部薬学科 緒方浩二　教授	国立研究開発法人理化学研究所 科技ハブ産連本部　バトンゾーン研究推進プログラム	客員研究員
薬学部薬学科 畠山允　講師	国立研究開発法人理化学研究所 科技ハブ産連本部　バトンゾーン研究推進プログラム	客員研究員
薬学部薬学科 黒川陽介　教授	一般社団法人日本医療薬学会	代議員
薬学部薬学科 黒川陽介　教授	一般社団法人山口県薬剤師会	倫理審査委員会委員
薬学部薬学科 黒川陽介　教授	山口県病院薬剤師会	講師
薬学部薬学科 篠原久明　教授	国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学センター　疾患遺伝研究チーム	客員研究員
薬学部薬学科 嶋本顕　教授	日本組織培養学会	培養講習会講師
薬学部薬学科 和田光弘　教授	特定非営利活動法人薬学共用試験センター	委員会委員
薬学部薬学科 和田光弘　教授	公益社団法人日本薬学会	学術誌編集委員
薬学部薬学科 立花研　准教授	公益社団法人日本薬学会 環境・衛生部会	総務委員会委員
薬学部薬学科 武藤純平　准教授	公益社団法人日本薬学会	若手教育者のためのアドバンス・ワークショップ実行委員
共通教育センター 金田和博　教授	公益社団法人日本技術士会	中国本部応用物理学部会幹事
共通教育センター 金田和博　教授	山口県中小企業団体中央会	審査委員
共通教育センター 金田和博　教授	理窓技術士会	運営委員会委員
共通教育センター 浅野比　講師	公益社団法人日本分析化学会	分析化学討論会実行委員
共通教育センター 浅野比　講師	公益社団法人日本分析化学会	分析化学編集委員
共通教育センター 浅野比　講師	公益社団法人日本分析化学会	中国四国支部幹事
共通教育センター 浅野比　講師	第３回美又地域成果報告会	「至高の肌再生の湯−学術調査から美又温泉の謎に迫る−」講師

(2) 非常勤講師・役員の応嘱（行政関係以外）

本学における平成 30 年度の非常勤講師・役員の応嘱の状況は次のとおりです。

氏名	従事先	従事内容
工学部機械工学科 永田寅臣　教授	岡山大学	非常勤講師（機械システム工学セミナーⅠ）
工学部機械工学科 吉田和司　教授	中央大学	兼任講師（情報機器）
工学部応用化学科 石川敏弘　教授	東京理科大学	客員教授（研究推進機構総合研究院先進複合材料・構造 CAE 研究部）
工学部応用化学科 池上啓太　准教授	大阪大学	招へい准教授（太陽エネルギー化学研究センター）
薬学部薬学科 緒方浩二　教授	北里大学	講師（理学特別講義）
薬学部薬学科 緒方浩二　教授	東京薬科大学	非常勤講師（計算科学）
薬学部薬学科 嶋本顕　教授	広島大学	客員教授（医歯薬保(歯)口腔生物工学）
薬学部薬学科 嶋本顕　教授	メディバイオ事業研究会	研究会講演会講師
薬学部薬学科 広井賀子　教授	関西医科大学大学院	講師
薬学部薬学科 和田光弘　教授	九州保健福祉大学	実習担当教員（分析化学実習）
薬学部薬学科 伊豫田拓也　准教授	東京理科大学	客員研究員（客員准教授） （研究推進機構総合研究院　再生医療と DDS の融合研究部門）
薬学部薬学科 伊豫田拓也　准教授	東京理科大学	客員研究員 （研究推進機構総合研究院　トラスレーショナルリサーチセンター）
薬学部薬学科 沖田直之　講師	東京理科大学研究推進機構 総合研究院トランスレーショナルリサーチセンター	客員研究員
薬学部薬学科 沖田直之　講師	東京理科大学　薬学部	客員研究員
薬学部薬学科 山中龍　助教	山口大学	第 10 回 IoL コロキウム特別講演会講師
共通教育センター 笠置映寛　准教授	広島大学大学院	客員准教授（物理教材内容論）
共通教育センター 堤千佳子　教授	山口大学	非常勤講師（英語）
共通教育センター 福田廣　教授	山口県立萩看護学校	非常勤講師（心理学）
共通教育センター 福田廣　教授	徳山看護専門学校	非常勤講師（心理学）
共通教育センター 福田廣　教授	山口コ・メディカル学院	非常勤講師（心理測定法、人間発達学）
共通教育センター 福田廣　教授	YIC 看護福祉専門学校	非常勤講師（心理学）
共通教育センター 福田廣　教授	放送大学学園	非常勤講師（心理学実験）

共通教育センター 村田貴信　教授	宇部フロンティア大学	非常勤講師（哲学）
共通教育センター 木村良一　准教授	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所	客員准教授（創薬に繋げる実験動物の脳機能イメージング法開発）

(3) 山口県薬剤師会との連携協定締結

開催日：平成 30 年 10 月 31 日（水）

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：本学と、一般社団法人山口県薬剤師会は、知的・人的資源の交流及び活用を図り、地域の医療・保健・福祉の発展及び向上に寄与することを目的として、包括連携・協力に関する協定を締結し、平成 30 年 10 月 31 日に協定調印式を本学で執り行いました。立会人として臨席された、山陽小野田市の藤田剛二市長と、山口県健康福祉部の喜多洋輔審議監から、行政として今回の連携に大変期待している旨の祝辞をいただきました。





(4) 山陽小野田薬剤師会との連携協定締結

開催日：平成 30 年 12 月 19 日(水)

場　所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内　容：本学と、一般社団法人山陽小野田薬剤師会は、知的・人的資源の交流及び活用を図り、地域の医療・保健・福祉の発展及び向上に寄与することを目的として、包括連携・協力に関する協定を締結し、平成 30 年 12 月 19 日（水）に協定調印式を本学で執り行いました。立会人として臨席された山陽小野田市の藤田剛二市長から、「本市では保健・医療・福祉の連携を図り、地域ぐるみの健康づくりの充実を目指しています。今回の連携は市としても大変喜ばしい。」との祝辞をいただきました。





12. 地域からの入学

(1) 地域推薦入試

入学者に占める山口県内出身者の比率を高めるために、推薦入試では山口県内の高等学校等出身者を対象とする「地域推薦入試」を採用し、工学部では入学定員の 23%、薬学部では入学定員の 25%を地域推薦の募集人員に設定しています。

平成 30 年度の入学者選抜区分と募集人員は以下の表のとおりです。

（単位：人）

学部	入学定員	入学者選抜区分と募集人員					
		地域推薦					一般選抜その他
		市内枠	県内枠	指定校	計	割合	
工学部	200	13	33	－	46	23.0%	154
薬学部	120	5	20	5	30	25.0%	90
計	320	18	53	5	76	23.8%	244

(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）

平成 30 年度の入学者 330 人のうち、山口県内出身者は 89 人と、入学者全体の 27.0%となりました。

（単位：人）

学部	入学者数	山口県内出身者		山陽小野田市出身者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	211	54	25.6%	10	4.7%
薬学部	119	35	29.4%	3	2.5%
計	330	89	27.0%	13	3.9%

13. 地域への人材輩出

大学院進学者を除く平成 30 年度卒業者数は、工学部が 233 名、大学院（修士課程）が 7 名で、このうち山口県内への就職者は 69 名（就職者の約 31%）となっています。

また、山口県出身者の山口県内就職率は、約 63%となっています。

山口県内の主な就職先は、製造業、情報サービス業です。

（単位：人）

	就職者	山口県内就職者		山陽小野田市内就職者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	219	68	31.1%	14	6.4%
大学院（修士課程）	7	1	14.3%	0	－
計	226	69	30.5%	14	6.2%

※山口県内企業は県内に本社又は事業所がある企業を含む

※山陽小野田市内企業は市内に本社又は事業所がある企業を含む

14. 地域への経済波及効果

山陽小野田市立山口東京理科大学が立地することによる地域への経済波及効果（平成 30 年度）

	山口県への経済波及効果	山陽小野田市への経済波及効果
直接効果	22.4 億円	13.6 億円
生産誘発額	19.1 億円	11.5 億円
付加価値誘発額	11.6 億円	7.0 億円
総合効果	53.1 億円	32.1 億円

15. 市内人口の約 56 人に 1 人が理科大生

平成 30 年 5 月 1 日現在の、山陽小野田市の人口 63,380 人に対し、山陽小野田市立山口東京理科大学の学生数は 1,123 人（学部 1,098 人、大学院 25 人）と、市内人口の約 56 人に 1 人が理科大生となります。

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学
〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL：0836-88-3500（代表）



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University